

(教育・学習機会の充実－N－5)

校務支援システムの導入を成功させるポイント (和歌山県教育委員会)

〔概要〕

本県では、平成23年度に校務支援システムを全ての県立高校に導入し、5年が経過しようとしています。導入前には、「パソコンが苦手だが大丈夫か」、「本当に日々の業務が楽になるのか」などの不安の声も聞かれましたが、今では、「生徒指導要録の作成が楽になった」、「生徒の出欠状況や成績等がリアルタイムに把握できるので大変便利」といった感想が多く聞かれます。また、システムのトラブルや学校からの問い合わせ、機能改善などの要望もほとんどない状況です。さらに、平成27年度には、県立特別支援学校、県立中学校にもシステムを導入しました。

校務支援システムの導入を成功させるポイントについて紹介します。

〔コラム〕

1 導入経過

平成21年度からシステムの開発を開始し、平成23年度から運用を開始しました。また、平成21年度には、教員1人1台パソコンを整備するとともに、職員室はもとより教職員が常駐するすべての部屋に校内LANを延伸しました。さらに、システムエンジニアを教育委員会に常駐させ、学校からの様々な質問やトラブルに対応できる体制を整えました。

2 システムの概要

成績処理や出欠管理などの教務分野をはじめ、進路指導分野、保健分野、事務分野など、学校における校務を広く処理できるシステムとしています。また、学校から教育委員会への各種報告業務の機能をシステムに持たせていることも特徴の一つです。

3 生徒を気付けるシステム

(1) 生徒を「感じられる」、「気付ける」システム

校務支援システムは、単にデータをインプットしてアウトプットできればよいというものではありません。手書きで成績通知表を書いたり出席簿を記入していた頃は、「最近成績が振るわないな。どうしたのかな。」、「欠席や遅刻が多くなってきたな。」など、常に生徒を感じ、小さな変化に気がつきやすかったと思います。

ところが、校務支援システムに成績や出欠情報を入力し、自動的に成績通知表が印刷されたり、出席簿が管理できたりすると、ともすれば生徒への気付きが薄れがちになりはしないかと懸念しま

【出欠入力画面】



す。本県におけるシステム開発において最も大切にしたことの一つに、如何に「生徒を感じられる」「気付ける」システムとするかということがあります。

例えば、出欠情報を入力する際、対象日のみを画面に表示して入力するのではなく、今まで記入したデータを見渡しながらい入力することで、生徒の小さな変化に気付けるよう工夫しています。

(2) 各機能の「横」の連携強化

「成績処理」や「出欠管理」など、各機能のみを見ればうまく動作するシステムであっても、それぞれが独立して動作し、互いの連携がなければシステム全体としての機能性は半減してしまいます。本県のシステムでは、教科担当がホームルームの出席簿を閲覧することや、クラブ顧問が担当する生徒の保健室来室記録を閲覧することを可能とするなど、各機能の「横」の連携を強化しています。

4 「使ってもらえる」システムをめざして

学校へシステムを導入しても、活用されなかったり、校務が軽減されなければ導入した甲斐がありません。行政に携わる者の責務として、学校から「校務支援システムを導入してもらって本当によかった。」と言ってもらえるようなシステムを導入しなければなりません。

(1) 使いやすさの追究

本県では、徹底してディテールにこだわり、使いやすいシステムを追究しました。そのこだわりをいくつか紹介します。

例えば、帳票を印刷する際、文字数に応じて自動的にフォントサイズを調整する機能や禁則処理も行っており、枠内にきちんと印刷されるようにしています。また、外字にも完全に対応させています。こうしたことは、ワープロでは当然の機能ですが、JavaによるWebアプリで実現することはかなり大変なことなのです。

また、あるデータの集計に、例えば1分かったとします。この1分をどうみるか。機能としては正常に動いているからよしとするか、時間がかかりすぎるためプログラムの修正が必要とみるか。実は、このことが、使い勝手のよいシステムであるかどうかという点において大きな問題なのです。機能としては正常に動いているからよしとするのではなく、1秒でも速く、すなわち、ベターでなくベストのプログラムをめざさなければ、使いやすいシステムにはなりません。

(2) 共通性と個別性

本県のシステムは、センターサーバで共通のWEBアプリを稼働させ、全課程、全学科に対応させています。システムが共通であるため、教職員からは、「転勤しても同じ画面で、操作方法も同じなので安心感がある。」といった声も聞かれます。

一方、システムが共通であるがゆえ、各学校の個別の要望に応えられないといった事情も生じてきます。しかしながら、学校におけるこれまでの運用をシステムに合わせるのは本末転倒であ

【豊富なパラメータ設定の例】

出力項目	<input checked="" type="checkbox"/> 素点	<input checked="" type="checkbox"/> 評点	<input type="checkbox"/> 評定
素点基準値未満の表示の仕方	<input checked="" type="radio"/> *を付ける <input type="radio"/> そのまま		
評点基準値未満の表示の仕方	<input checked="" type="radio"/> *を付ける <input type="radio"/> そのまま		
出欠の記録出力	<input checked="" type="radio"/> 出力する <input type="radio"/> 出力しない		
出欠の記録集計方法	<input checked="" type="radio"/> 累計で出力 <input type="radio"/> 期間出力		
出欠の記録 出力項目			
選択	項目		
<input checked="" type="checkbox"/>	授業日数		
<input checked="" type="checkbox"/>	出欠引等の日数		
<input type="checkbox"/>	留学日数		
<input checked="" type="checkbox"/>	出席すべき日数		
<input checked="" type="checkbox"/>	出席日数		

ると思います。

そこで、本県では、システムはもちろんのこと、印刷帳票の様式等は共通にするものの、パラメータやマスタの設定により、各学校が個別に、これまで通りの内容を出力できるよう工夫しました。このことで、各学校の従来のやり方を極力支持することができ、学校からも大変好評を得ています。

5 システムの導入を成功させるポイント

県立高校全校に校務支援システムを導入して5年が経とうとしていますが、現在も全ての学校で活発に運用されており、全校へのシステム導入がうまくいったと感じています。

しかし、計画当初からすべてうまくいったわけではありませんでした。開発したシステムに障害や不具合が発見され、緊急にプログラムの修正を行ったことも幾度となくありました。また、処理速度が想定以上に遅く使用に耐えないということで、サーバを入れ替えたこともありました。さらに、学校からの機能改善の要望も毎日のように寄せられ、その数は、運用後2年間で600件以上にのぼりました。しかし、その一つ一つを精査し、開発業者と仕様を検討し、プログラムを改善しました。結果として、寄せられた要望の約98%を実現しました。

このように、成功までの道のりは決して平坦ではなく、試行錯誤の連続であり、むしろ険しい道であったと思います。しかし、壁に当たるたびに、どうすればよいか、どうすればうまくいくかといったことを真剣に議論し、その時々講じた策の積み重ねが成功へと導いたと思います。

最後に、システムの導入を成功させるためのポイントをいくつかまとめておきたいと思います。それは、

- ・ 全校をそれぞれ複数回訪問し、教職員の生の声を直接聴くこと。
- ・ 妥協することなく、徹底して使いやすいシステムを追究すること。
- ・ 学校の業務に支障をきたさないよう、システムに障害や不具合を発見した際は、その日のうちに必ず修正し、翌日には正常に運用できるようにすること。
- ・ コンピュータに詳しい教職員が少ない分校や定時制の学校から支援の要請があった場合は即座に訪問し、マスタの設定を学校と一緒にを行い、使用できるようになるまで支援を行うこと。
- ・ 機能改善のためにプログラムを修正する際には、学校が計画や予定を立てやすいよう、どのような改善を行うのか、いつから使用できるのかといった予告を行うこと。

などです。

システムを学校に導入すれば終わりではなく、むしろはじまりであるという意識を強くもち、誠実に学校を支援することが重要であると思います。

【問い合わせ先】

- ・ 和歌山県教育庁教育総務局総務課
- ・ 電話番号：073-441-3641
- ・ e-mail：e5001001@pref.wakayama.lg.jp